

アメリカ移民の話 6

日本人のアメリカへの移民は、大正十三年（一九二四）に成立したアメリカの「排日移民法（日本での通称名）」によって禁止されることになりました。この背景にあったのが黄禍論^{おうかくろん}です。白人の側から黄色人種を脅威とみる見方で、明らかな人種差別です。

一九一四年から一八年の第一次世界大戦が終結すると、パリで講和会議が開かれます。連合国側に属した日本も代表団を送り込みました。これを受けて、一九一九年には国際連盟が設立され、第二次世界大戦後の国際連合へと続きます。

国際連盟の発足に際し、日本は「人種的差別撤廃提案」を行いました。これはアメリカの反対で実現

しませんでした。賛成多数でしたが、全会一致でなかったことから、提案が国際連盟の規約に盛り込まれることはありませんでした。

「人種差別撤廃」に反対したアメリカで、日本移民を排斥する動きが強まり、ついには「排日移民法」の成立へと至りました。

昭和十六年（一九四一）十二月八日、アメリカ海軍基地のあったハワイの「パールハーバー（真珠湾）」を日本海軍が奇襲攻撃し、太平洋艦隊に大打撃を与えました。

これによってアメリカが、連合国の一員として第二次世界大戦に参戦することになりました。日本は日独伊三国同盟により、ドイツ・イタリアと枢軸国

日本人の西海岸からの総立ち退き命令が下ったのは一九四二年三月二十日で、実施に移されたのが四月二十三日だった。戦争勃発当時、太平洋岸のカリフォルニア州、オレゴン州、アリゾナ州などを中心に日系人の総数は十一万二千九百八十五人、内一世は四万一千八十九人、二世七万八千九百九十六人でその比率は三十六%、六十四%であった。太平洋沿岸地帯の防衛上、スパイや側面的攻撃の恐れを皆無にするため強制的に日系人をこの地から排除するのが目的であった。

具体的には指導的立場にある日系人一世を収容所に入れ、二世を含む家族は内陸部に移住させました。安河内喜三（須恵町出身）は一九四二年二月二十七日午後一時、サンマルカスから連行され、サンディエゴ郡監獄に収監されました。翌日、北口サンジェルス^{サンジェルス}のタハンガー峡谷の収容所に送られたのでした。この時、喜三の年齢は六十九歳四か月でした。喜三の子、泰介（四十二歳）も同様の目にあつたのです。三月十二日、バスと列車を乗り継ぎながら、十三日にはサンタフェの収容所へと到着しました。

残された家族は一九四二年五月十五日〜十七日、アリゾナ州ボストンの転住地に収容されました。以

下はインターネット上のフリー百科事典・ウィキペディア（「日系人の強制収容」）からの引用です。

アメリカ国内においては、この行政令が、カリフォルニア州やワシントン州、オレゴン州などのアメリカ西海岸沿岸州と準州のハワイ地域に住み、市民権が与えられない（あるいは剥奪された）日本人、アメリカ国籍を持つ移民一世と、その子孫で日本人の血が16分の1以上混ざっている日系アメリカ人達の強制立ち退きと『戦時転住センター』への強制収容に発展した。従軍中の日系人は収容こそされなかったが、除隊され敵性外国人とみなされたり、軍隊内で差別を受けるなど憂き目を見た。

「この行政令」とはフランクリン・ルーズベルト大統領が署名した、軍が強制的に「外国人」を隔離することを認めた命令です。「外国人」を対象としたはずなのに、実際に適用されたのはアメリカ国籍を持つ日系人を含んでいるので、拡大解釈されたように見えます。

再びウィキペディアによると、アメリカ国内における全ての強制収容所は人里離れた内陸部、その多くは砂漠地帯に設けられていた。しかも、逃亡者を防ぐために有刺鉄線のフェンスで

を形成しました。

最も衝撃を受けたのは日系のアメリカ移民の人たちでしょう。親子・兄弟・姉妹が二つの祖国に引き裂かれることになりました。安河内隆介『父と子 日米に別れて生きた九十年』にその時の貴重な記録が残されています。

真珠湾攻撃当日の夜、FBIは日系人数十人を収監し、その他の日系人にも居住地から五マイルの範囲以上に移動することが禁じられたということです。以下は『父と子 日米に別れて生きた九十年』から引用します。

外部と完全に隔てられている上、警備員の銃口は常に収容所内部に向けられていた。

この強制収容はアメリカの歴史の汚点と考えられ、一九九二年には再びジョージ・H・W・ブッシュ大統領【父親の方】が国を代表して謝罪すると同時に、全ての現存者に二万ドルの賠償金が行き渡るように四億ドルの追加割り当て法に署名し成立させた。一九九九年に賠償金の最後の支払いが行なわれ、十一年間に総額十六億ドルが八二、二一〇人の収容された日系アメリカ人、もしくはその子孫に支払われ賠償を終えた。

なお、ホームページ「全米日系人博物館」によると、（概要）

第二次世界大戦中、アメリカ政府は二万人以上の日系アメリカ人を、西海岸から強制的に立ち退かせた。かれらの七割はアメリカ生まれの二世で市民権を持っていたにもかかわらず、中西部に設けられた一〇ヶ所の強制収容所に送られた。ハワイの日系アメリカ人は、人口比率がとても大きかったため、強制退去を強いられた人々は少数にとどまった。